

科学コミュニケーション研究会第10回年次大会 一般講演予稿集

2014年9月7日(日) 13:30~

<口頭発表>4件

01 大学院生出張授業プロジェクト“BAP”の取り組み

鈴木初実(東京大学大学院/大学院生出張授業プロジェクト“BAP”)

大学院生出張授業プロジェクト(Back to Alma mater Project, BAP)では東京大学の大学院生を中心としたメンバーが、大学での研究活動の魅力を中高生に伝えるため、主に母校で出張授業を実施している。更に、こういった出張授業の文化やノウハウを全国の大学院生に広めるべく活動している。2008年度の設立以来2013年度末までで、出張授業件数は計112件となり、受講者は5000人を超えた。本発表では、その実績と共にノウハウの一部や実際の出張授業についての事例紹介を行う。

02 科学技術イノベーション政策形成のためのパブリックエンゲージメントについての省察:「夢ビジョン2020」への取り組みを事例として

工藤充(京都大学)

文部科学省の「科学技術政策のための科学」事業の一環として行われている「科学技術イノベーションに向けた政策プロセスへの関心層別関与フレーム設計」(=PESTI)プロジェクトでは、文部科学省が2020年東京オリンピック・パラリンピックのために「夢ビジョン2020」を策定するに当たり、省内の担当部署と連携してパブリックエンゲージメント活動を行った。本発表では、活動の概要、成果、および活動を通じて見えてきた問題点について論じる。

03 非専門家への研究リソースの提供例:作家への宇宙研究リソース提供による作品製作・展示

玉澤春史(京都大学理学研究科附属天文台)

京都大学宇宙総合学ユニットでは、宇宙に関する社会連携活動として様々な分野との融合イベントを手掛けてきた。2013年には学生・若手が主導し、天文台の利用、研究者の助言、画像案内など研究リソースの提供により、作家による衛星画像を利用した作品の製作と天文台での展示を行った。研究者側が考える単純な情報提供ではなく、作家の興味により内容・手法を調整する必要がある、2014年は体制を拡充して実施する予定である。本発表では昨年と今年の現状報告を行う。

04 「国民との科学・技術対話」に向けた若手研究者向け対話力トレーニングプログラムの開発と実践：京都大学物質-細胞統合システム拠点の実践を事例に 秋谷直矩（京都大学）

京都大学物質-細胞統合システム拠点（以下 iCeMS）では、iCeMS の若手研究者を対象とした「対話力トレーニングプログラム」の開発と実践を進めている。ここでは、社会のなかに科学を位置づけるための「対話」の実践を目標としている。本発表では、この教育プログラムの概要を紹介し、これまで積み重ねてきた実践例および教育プログラムの開発プロセス・内容についての省察を行う。それにより、こうした教育プログラムの意義と展望について論ずる。

<ポスター発表>2件

05 産学連携プロジェクトにおける学術広報 ケーススタディ 和田雅子（北海道大学）

2006 年から 10 年の事業で行われている産学連携のマッチングプロジェクトである、文部科学省先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラム「北海道大学未来創薬・医療イノベーション拠点形成」において広報業務を担当している。本発表で、当該事業における広報活動を紹介する。諸活動の紹介を通して、よりよい産学連携における学術広報のあり方について、また社会への説明責任の方法等について思索する一助としたい。

06 天文学普及プロジェクト「天プラ」はなにを目指すか 高梨直紘（東京大学）

天文学普及プロジェクト「天プラ」は、天文学専攻の大学院生らを中心にはじまった活動である。天文学と社会のより良いあり方を考え、実現していくことを目標に、ユニークな活動を展開してきた。これまでの活動を通じて私たちはなにを発見し、それにどう対応してきたのか。この先に、どんな展望を見据えているのか。これらの点を中心に活動を報告したい。